
あめのくに

浅色ミドリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あめのくに

【Nコード】

N6803A

【作者名】

浅色ミドリ

【あらすじ】

大昔は晴れと雨が混在している世界だった。昔話でよくそう聞かされ、歴史上でも残っている。それは随分昔。今は、雨が止まない世界。

（前書き）

詩のような、短編小説です。

今の世界の何百年も、何千年も後の世界が舞台。

どいうわけか、世界は雨が止まなくなってしまった。

しとしと、ぽちぽち。

雨は止まない。

しとしと、ぴたぴた。

繰り返す雨は止まない。

不思議な空間に包まれてるような、そんな雨。
そう、今日も雨は降る。

しとしと、ぽたぽた。

雨が止むことはない。

ここは、そういう国。

晴れという言葉は、太古の昔の言葉。
昔は晴れというものがあつたらしい。

私は晴れを知らない。

この国の人も、晴れを知らない。
大陸の人も…。

けれど心までもが雨なわけじゃない。

毎日雨が降る。

雨は用水路を流れて、海へ着く。

海は危険。

海へ出ていって、帰ってきた人はいない。
太古の昔は、海を渡っていたらしいけど。

雨は今日も降り続ける。

いつまでも、終わることは無い。

私は雨が好き、なのがよくわからない。

毎日眺めてるもの。

外で遊ぶ時はコートを着る。

だって濡れるもの。

雨遊びは、子供の頃みんなやるよね。

雨は恵みの雨。

雨が無ければ作物は育たない。

雨水は栄養価が豊富に含まれているって、随分昔の研究者が見つけたんだっけ。

でも濾過しないと飲めないのよね、お腹壊すって。

私はこの大陸から出たことがない。

私の親も、その親の代も出たことがない。

ずっとずっと、雨が止まないまま。

海の真ん中では、神様がストレス発散のために大暴れしてるんだってね。

だから誰も帰ってこれない。

大昔は晴れてたんだってね。

だから海も渡れた。

晴れと、雨と、繰り返し。

私たちには想像がつかないな。

晴れて、どんな感じなのかしら。

絵本の中では七色に光っているけど。

よくわからない。

晴れたらいいなって思うコトも、あるけど。

でもやっぱり、怖い。

なんだろう、よくわからないけど 怖い。

やっぱり、今の生活のままでいいや。

海の方こう、何があるんだろう。

（後書き）

梅雨の今の時期と掛け合わせてみました。
永遠の梅雨、明けるのことの無い雲。
感想、お待ちします（苦笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6803a/>

あめのくに

2010年10月17日07時19分発行